

式 辞

雪解けが進み、木々の蕾が確実に春に向かってふくらみ始めています。この佳き日に、美香保中学校を巣立つ90名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。心から祝福申し上げます。

また、本日はPTA会長様をはじめ、学校運営協議会委員の皆様、地域の方々、そしてパートナー校の校長先生方など、多くの御来賓、保護者の皆様の御臨席を賜り、式を挙行できますことを深く感謝申し上げます。

ただいま、卒業証書を一人一人に授与いたしました。受け取る皆さんの、若く透き通った眼差しを見ると、この学び舎で共に過ごした日々が鮮明によみがえってきます。

皆さんはどの行事においても、私の期待をはるかに超え、自らの最高到達点を更新し続けてきました。修学旅行では「みんながみんなの中で自由に自分らしくいられる」雰囲気を築き上げ、学校祭では後輩たちの憧れとなる劇や、私の背後にある力強いねぶた壁画、そして体育館入口にあるシンボルマークのオブジェを熱意をもって完成させ、たくさんの笑顔の華を咲かせました。そして、合唱コンクール、あの「大地讃頌」の圧倒的な響きは、聴く人の魂にまで届くものでした。

皆さんが示した、「一生懸命には一生懸命応える」という信頼関係と、自らの思いを実現していく自治の力こそが、本校の誇るべき伝統です。この三年間で培った一体感という強さを自信に変え、これからの新しい旅立ちのスタートラインに立ってください。

卒業生の皆さん、改めて、これまでの人生を振り返ってみてください。皆さんは、生まれてから今日まで、数えきれないほどの「できるようになった幸せ」を積み重ねてきました。靴ひもを結べた時、自転車に乗れた時、難しい問題が解けた時——その一つ一つが、皆さん自身の成長の足跡です。しかし今、この節目だからこそ考えてほしいことがあります。これまでのあなたのそばには、常に支えてくれた大切な人がいたことを。そして、その日々がどれほど「やってもらおう幸せ」で満ちていたかを。

「生きる」ということは、自分一人の力だけでは成し遂げられません。家族、先生、地域の皆様、そして笑い合い、励まし合った友達——多くの人の存在があってこそ、今のあなたがあります。そして、支えてくれた人への感謝の心が湧き上がる時、人は本当の意味で強く、大きく成長します。なぜなら、支えてくれた人たちの「思い」は、あなた自身の糧となり、大きな力へと変わるからです。これまで注いでもらった「やってもらおう幸せ」を、これからは「人を支える力」として発揮し、「人にしてあげる幸せ」をたくさん感じられる大人へと成長することを願っています。

そこで、皆さんに贈りたい言葉があります。それは「克己利他（こっきりた）」という言葉です。

まず、平安時代の僧侶・最澄が説いた「忘己利他（もうこりた）」という考え方があります。これは「人を喜ばせるとき、自分の命が最も輝く。だから自分のことは後回しにしても他者のために尽くす。」という意味です。しかし私はこう考えたいのです。他者を大切にするためには、まず自分自身をしっかり持つことが必要だと。

そこで大切なのが「克己」です。「克己」とは、自分の弱さや迷いに打ち勝ち、自らを律することです。

自分を大切に育て、自分に克つ。その強さを持って初めて、他者を心から思いやる「利他」が可能になるのではないのでしょうか。

では、「克己利他」を体現するために最も大切なことは何か。それは、「一瞬一瞬の選択を大切にすること」です。これは今日、私が皆さんに最も伝えたいことです。私たちは日々、選択の連続の中にいます。未来とは遠いどこかにあるものではなく、「今」という瞬間が連続した先にあります。だからこそ、この「今」を前向きに、丁寧に選択してください。その積み重ねが、揺るぎない自分自身を築いていきます。

「ばらばらで一緒」——これは皆さんと出会ってからずっと伝えてきたことです。みんな違う“ばらばら”。その違いを互いに認め、生かし合ってこそ、本当の意味で「一緒」になれます。皆さんは本校で、その尊さを学んできました。

フランスの詩人ポール・ヴァレリーは言いました。「湖に浮かぶボートをこぐように、人は後ろを見ながら未来へ進む。見えるのは過去の風景ばかりだ。」と。これから未知の未来へ漕ぎ出すとき、皆さんの支えになるのは、この美香保中学校で培った経験や思い出という「過去の風景」です。美香保中は皆さんのかけがえのないふるさとです。

さあ、ここでの日々を胸に秘め、未来という大きな湖に向かって、胸を張って漕ぎ出してください。あなたを主人公とした物語はまだまだ続きます。

結びになりますが、保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。皆様の愛情は確かにお子様に通じ、本日、立派に義務教育を修了いたしました。これからは大人の社会へ一歩ずつ近付いてまいります。温かく見守っていただくとともに、人生の良き先輩として更なる御助言をよろしく願いたします。

私ども教職員も、卒業生の健やかな成長を願い、永遠の応援団であり続けたいと思っております。地域の皆様には、本校教育への一層の御理解と御協力を重ねてお願い申し上げ、式辞といたします。

令和8年3月13日

札幌市立美香保中学校 校長 伊達 峰史